

環境大臣表彰受賞者一覧

| 表 彰 団 体 名 (代 表 者 名) | 功 績 |
|--|---|
| みず さくせんじつこういんかい あじ水ぎわクリーン作戦実行委員会 たきもと しげき (代表者: 滝元 茂樹) | 平成5年に設立され、海岸清掃を通して、ボランティア活動を理解し、環境問題を身近なものとして受けとめ、庵治町海岸線全域での一斉清掃、小学校への出前講座、啓発用看板の設置・管理等、環境保全活動・啓発活動に貢献した。 |
| いまづがはましおさい まも かい 今出ヶ浜潮騒を守る会 せんぼ たかし (代表者: 仙波 隆) | 平成13年に設立され、愛媛県松山市垣生地区の今出ヶ浜及び重信川河口一帯の環境を保全していくために、住民や小中学校の児童生徒の参加による年2回の清掃活動の継続実施、会員による2ヶ月に1回の清掃活動等、海岸・砂浜の美化に貢献した。 |
| おおがきぜんかんきょうたいけんがくしゅうこうりゅうかん 大柿自然環境体験学習交流館 にしはら なおひさ (館長: 西原 直久) | 平成14年に設立されて以来、身近な自然に直接触れながら、島嶼部ならではの「海辺の自然」、「ふるさとの自然」をテーマとした学習や科学研究を支援し、自ら学び自ら考える力を育てる学習活動の場を提供していくことを目的に、地域性を活かした理科教育・環境教育の充実・活性化を推進する等により環境教育・保全に貢献した。 |
| かぶしがかりや おおつきしんじゆ 株式会社 大月真珠 おおつき きょういち (代表取締役社長: 大月 京一) | 貝類が持つ水質浄化機能に着目した「兵庫運河におけるあこや貝(真珠貝)の生育実験」(神戸市環境局実施)において核移植などの技術指導を行い、これを契機に設立された「兵庫運河 真珠貝プロジェクト」においても、平成19年以降毎年、母貝の提供と技術指導を行い、プロジェクトの中核として、市民の環境意識の向上と「真珠のまち神戸」のPRに貢献した。 |
| さばかわ まな かい 佐波川に学ぶ会 よしまつ ただなお (代表者: 吉松 忠直) | 平成8年に設立され、川と地域住民とのふれあいを図ることを目的として、佐波川流域の水源となる森林整備活動、小中学生等への水生生物観察会や親水体験等の学習、啓発活動、佐波川の一斉清掃などを行い、佐波川の環境保全・教育活動に貢献した。 |
| とくていひえいりかつどうほうじん しゆし 特定非営利活動法人 アマモ種子バンク でぐち いちろう (代表者: 出口 一郎) | 平成15年に設立され、アマモ種子の採取・保存事業、「なぎさ街道」でのアマモ場再生プロジェクト、アマモ場造成に係る調査研究、森～川～海を結ぶ都市型河川の自然再生事業等を通じて地域社会の発展と環境との調和を図りつつ、アマモ場の回復・拡大をめざし、沿岸域環境の保全・創造に貢献した。 |
| とくていひえいりかつどうほうじん さとうみ けんきゅうかいぎ 特定非営利活動法人里海づくり研究会議 おくだ せつお (代表: 奥田 節夫) | 平成2年に活動を始め、岡山県倉敷市大島地先におけるアマモ場環境調査やアマモ場造成技術指針の策定などに取り組み、平成10年からは『里海』という概念をキーワードとして漁業現場や関連業界、行政上の現実的な課題・問題の解決のため実務的・実践的な調査研究を実施し、瀬戸内海における里海づくりに貢献した。 |
| やさか 八坂かっぱクラブ わたすえ (代表者: 綿末 しのぶ) | 平成10年に設立され、大分県杵築市八坂地区の川や海など自然体験を中心に、歴史や文化を学び、助け合いの心や自ら学ぶ力を身につけ、「生きる力」を育むことを目的に、八坂川流域の自然観察会、河口の清掃活動、地域の環境、歴史、文化の学習会を開催して、環境保全・啓発に貢献した。 |
| ゆずぎょきょうきょうどうくみあいじよせいぶ 遊子漁業協同組合女性部 やまうち みちこ (代表者: 山内 満子) | 昭和30年に設立されて以来、海を守る活動と魚食普及活動を主な活動と位置づけ、各地区の排水溝、海岸周辺、公共施設の清掃や、使用済みてんぷら油をリサイクルした石けん作り等に取り組み、普及啓発・環境保全に貢献した。 |

| 表 彰 者 名 (年 齢) 現 職 名 | 功 績 |
|---|---|
| なかむら ひでお 中村 英雄 (74) しんまちがわ まも かい 新町川を守る会NPO法人理事長 | 平成2年から、川めぐり無料遊覧船の定期運行、河川美化活動、源流の森づくり等の環境保全活動、環境に関する講演等の教育・啓発活動を実施してきており、また、徳島県環境審議会委員を務めるなど、徳島県の環境政策に尽力した。 |
| のがみ ゆうさく 野上 祐作 (70) 岡山理科大学理学部教授 | 昭和59年から岡山理科大学に勤務し、瀬戸内海の海水中に含まれる有害物質や変異原性物質に関する調査研究、児島湖とその流入河川の水質汚濁メカニズムの解明に関する研究等を長年に亘って取り組み、湖沼水質保全計画等の行政施策に深く関与するなど、瀬戸内海、流域湖沼、河川の水環境の保全において功績を収めた。 |
| ますだ たくろう 増田 拓朗 (65) 香川大学工学部長 | 昭和53年から、環境緑化学の専門家として、瀬戸内海国立公園の緑化や自然景観保全に努めた。香川県の環境審議会委員(平成22年から同会長)を務めるなど、瀬戸内海に関する環境影響評価の審議を通じて瀬戸内海の環境保全に貢献した。 |